中学・高校生～

2017年9月　no. 64

よんでネット＊

2017 秋号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「駅鈴（はゆまのすず）」

久保田　香里　　坂本ヒメミ・画

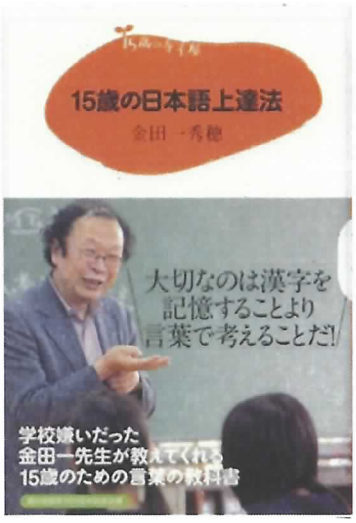
くもん出版〔913ク〕

「駅鈴（はゆまのすず）だ。駅使（はゆまづかい）がくる。」小里は、いちはやく高いかねの音を聞きつけ、父さんに知らせた。奈良時代中ごろ、都からの命令は、駅使いが駅家（うまや）ごとに馬を乗りかえ、駅子（うまやのこ）の先導で馬をかけ、すばやく国々に伝えていた。
小里は琵琶湖の南にある篠原駅家の駅長（うまやのおさ）の孫。女の子ながら祖父や父のような駅子にあこがれている。そこで出会ったのが たよりない見習い駅使の若見。励ましあう二人だが…

15歳の寺子屋「15歳の日本語上達法」

金田一秀穂

「今日の晩ごはんはお刺身よ！」と聞いただけで生ツバを飲みこむ私たち。でも、「死んだ魚よ」と聞くとどうですか？「刺身」と「死んだ魚」表現の仕方は違っても 同じもののはず。どうして言葉ひとつで こんなふうに違って感じるのでしょう？それは、私たちが「刺身」という「言葉」をうまいと感じ、「言葉」を食べているから。そもそも「言葉」ってナニ？興味がわいてきませんか？…これは ほんの入り口です。



講談社〔81キ〕

「すぐそこに、カヤネズミ」

全国カヤネズミ・ネットワーク代表
博士（環境科学）　畠 佐代子

身近にくらす野生動物を守る方法

表紙のネズミ、なんとも愛らしいですね。
体重が500円玉ほどの このネズミは、世界でも
珍しい、草の上に巣を作るカヤネズミです。
実はこのネズミ、昔から私たちの近くにある草地に
住んでいます。でも近年、開発により草地が激減。
カヤネズミは生息地を奪われ、絶滅寸前。
この本で カヤネズミとの共存の方法がないか
私たちも考えてみましょう。

くもん出版〔48ハ〕

「ノリー・ライアンの歌」

パトリシア・ライリー・ギフ作　もりうちすみこ訳

19世紀、アイルランド。イギリス統治下にあり、人々は苦しい生活を送っていた。
歌が大好きなノリーは12歳。
幼なじみのショーンの姉は、自由を求め、アメリカのブルックリンへ渡っていった。
ショーンは「いつか行こうな、おれたちも」と言う。
そんなとき主食のジャガイモが病気でまっ黒になり全滅するという大飢饉(ききん)が起こる。家畜まで地代として持っていかれて…

さ・え・ら書房　〔933ギ〕

「Q→A」

草野　たき

「学校生活で不安なことは？」
「恋愛してる？どこにひかれる？」
「なんのために勉強するの？」
中3になって出されたアンケートのQuestion。あなただったら何て答えますか。自信がなくて、いつも逃げ腰の朝子。不登校になった雅恵。本音を言える友達がほしい由里。片思いの征児と、ふられてしまった義巳。
卒業までにそれぞれが得たアンケートのAnswerは…

講談社　〔913ク〕